

# SITE

## 敷地

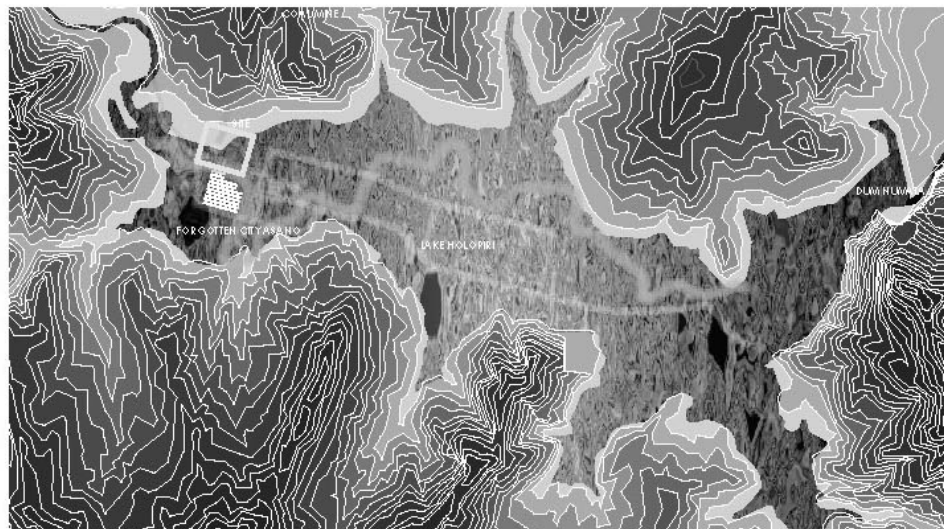
対象敷地は空知支庁雨竜郡沼田町ホロピリ湖の湖畔。かつて、この湖の下には炭坑都市があった。しかし、昭和30年のエネルギー革命により、昭和48年11月に閉山。平成4年の沼田ダム建設に際し、立ち退きを迫られ、炭坑都市は湖の中に姿を消した。この地は道内では珍しい源氏堂の生息地であり、7月〜8月にかけて鎮魂の光が灯る。

## 湖に沈む炭坑都市

炭坑都市の名は浅野。当時の人口3800人。湖の湖畔には、当時の選炭所が残されている。石炭の埋蔵量は2億8千万トンを擁する豊富な大炭田と称されていた。ヤマから石炭が運ばれ、この場所から鉄道によって道内の各地へと送り出され、北海道開拓の先導役となった。

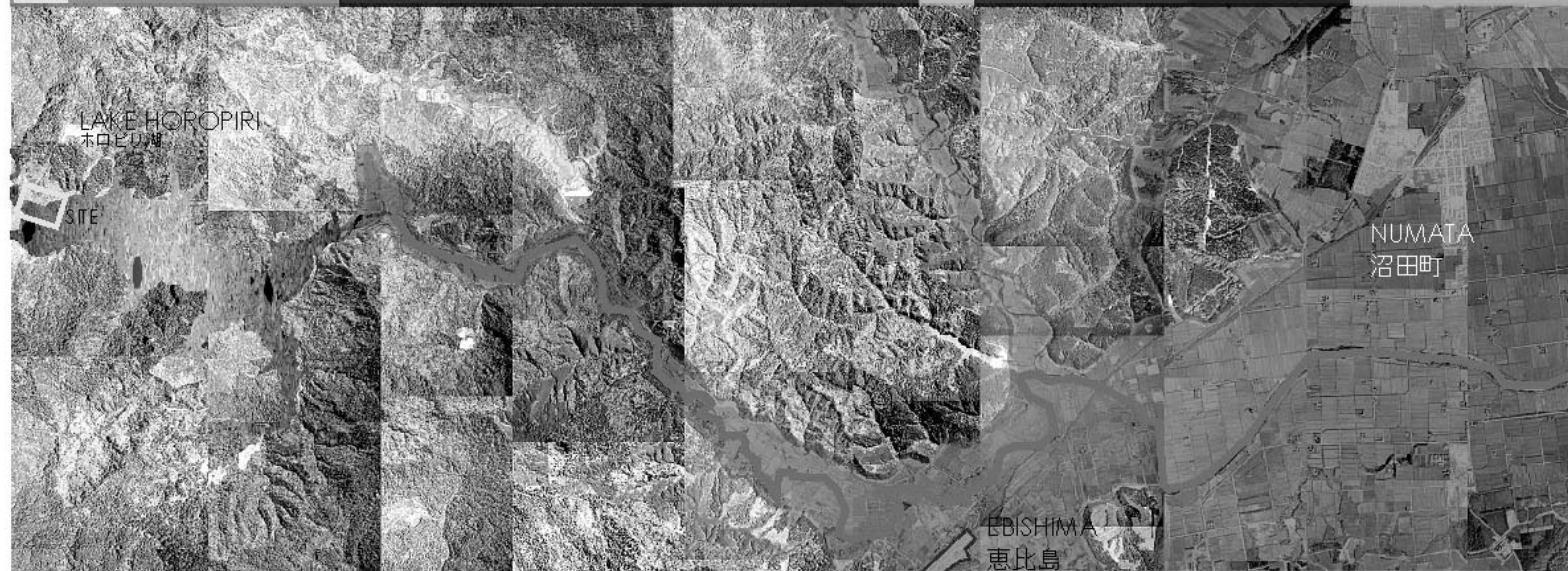
## 変化する水面、湖の呼吸

湖の水位は季節によって変化する。夏には農業用水の確保のために大量の水が送り出され、湖の湖面は静かに下がり大地をあらわにする。冬には豊かな水を蓄え、湖面は上昇し、大地は眠りにつく。湖畔の選炭場もまた、姿を見え隠れさせる。



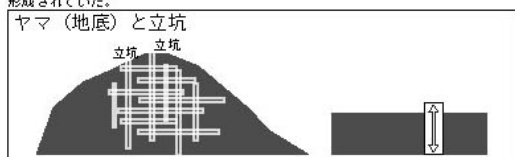
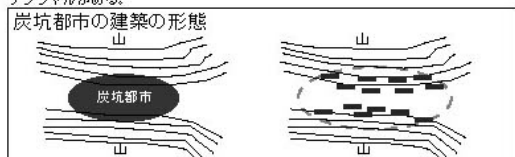
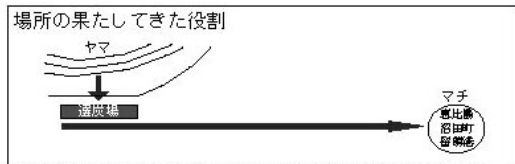
# PROGRAM

炭坑都市の消失した湖を創造の湖へと変換する。多く周辺町村の創造の場としてのMUSEUMとなる建築を設計する。このMUSEUMIによって周辺町村と湖の底に沈んだ忘れられた都市の記憶と現在の世界を結合する。このMUSEUMIは、この場所の記憶を語り継ぐと共に、失われた都市と今なお生き続ける都市との関係性を生み出すための媒介となる。

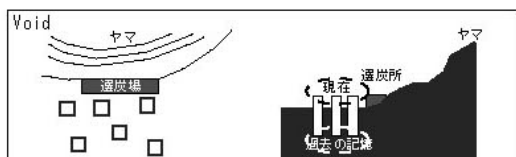
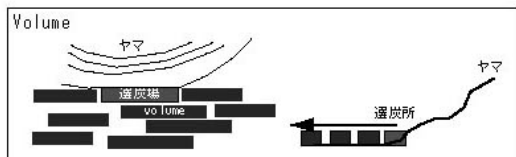
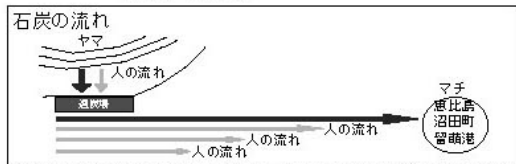


# DIAGRAM FOR ARCHITECTURE DESIGN

## PHASE 1 分析



## PHASE 2 建築の要素



## PHASE 3 建築の構成

